

<p>団体名</p>	<p>NPO法人 京都丹波・丹後ネットワーク</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>社会的要因で困難さを抱える子どもたちと保護者へのサポート事業</p>	
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p>■ 活動風景</p>	
<p>●望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>当法人の実現したいビジョンは、「すべての人にとっての暮らしたいまちの実現」である。そのためには、ことばの違いや見た目、出自、貧困等の要因により差別されることのない社会を作っていく必要がある。今回の事業では、フードバンクを活用した支援に重点を置き、そこから様々な支援につなげることにより、子どもたちの育つ環境を原因としたどんな差別も起こらないよう、多様な人たちと多様な方法で支援することで、誰もが暮らしたいまちをめざす。</p>		<p>寄付の仕訳</p>	 <p>少しでも多くの物資を届けようと、社協や団体、企業、個人などに声をかけて食材等の寄付を集めました。</p>
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>当団体の社会的役割は、「見逃されてきた課題に向き合い、共に安心と未来を創造する」ことである。具体的には、以下のような取組みを推進する。 1) 社会的要因で困難さを抱える子どもたちが、自分の存在を認め、自信と誇りを持てるよう、地域の中で多様な価値観にふれ、認め合う場をつくる。 2) 子どもたちだけでなく、一つひとつの家庭を支援することで、それぞれの抱える困難、課題を明らかにして、一律でない支援を続けることで、信頼関係を築き、一方的な支援ではない関係性を作っていく。</p>			
<p>●団体の活動基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人的資源：外国人自身が支援者となる場面や大学生・地域住民・地域の高齢者等も人的資源として活用できるような体制</li> <li>●物的資源：社会的要因により困難さを抱えている子どもたちが多く暮らしている地域に、それぞれ拠点となる場がある。</li> <li>●活動資金：事業を企業の外国人支援等を含め包括的に行うことで企業などからも報酬や寄附を得る仕組みが出来ている。</li> <li>●情報：当事者が必要とする情報を、それぞれの状況にあった利用しやすいツール、言語で適切に発信できている。また、当事者から得られる情報を事業等に活かしている。</li> </ul>			
<p>■ 活動報告</p>			<p>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>	
<p><b>○フードバンク及び見守り・傾聴</b> ひとり親家庭や外国にルーツを持つ子供のいる家庭のうち、コロナ禍の影響や円安の影響等により特に厳しい状況にある家庭にほぼ毎月食料の支援を実施し、見守りと傾聴を行った。 <b>○ミニ交流会・学習支援等</b> 交流会はワールドクリスマスや日本の伝統料理、BBQ等を実施した。貧困家庭に生まれても、様々な体験ができるよう工夫した。また、学習支援・日本語支援については、子供たちや保護者から環境、課題、目標などを丁寧に聴いて、一人ひとりに合った学習を行った。 <b>○相談活動</b> 最初のうちは信頼関係が出来ていない中、スタッフ側の知識不足もあって、相談に繋がるケースは少なかったが、後半では傾聴講座の成果もあって上手く聴き出せることが増えていき、それに伴い深刻な問題を抱えている家庭が多いことも分かった。</p>			<p><b>○フードバンク及び見守り・傾聴</b>⇒①アウトプット：23家庭（日本…16家庭 外国…7家庭）緊急支援として32家庭 n 絵本・児童書140人の子②アウトカム：継続支援の23家庭については、8割程度が第4段階。 <b>○ミニ交流会・学習支援等</b>⇒①アウトプット：交流会開催4回実施 学習支援・日本語支援3名に対して週1～2回実施②アウトカム：受益者（子ども・保護者）については、8割程度が第4段階。 <b>○相談活動</b>⇒①アウトプット：1年を通して100件以上（同じ家庭への相談の継続を含む）の対応②アウトカム：受益者（子ども・保護者）のうち継続支援を実施している家庭では、8割以上が第4段階。 <b>○組織基盤の強化</b>⇒①アウトプット：（情報・ツールの多言語化）30回以上 メディアによる発信（地元新聞・ローカルFM出演）2回 他のコミュニティと連携した情報発信6回（スキルアップ研修）傾聴（対人援助）講座6回 子どもの人権、SNSの影響等を知る講座3回 ファンドレイジング等講座2回②アウトカム：情報発信については第4段階 スタッフのスキルについては、総合評価として第3段階。</p>	
<p>■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>			<p>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国籍・外国ルーツの家庭へのアクセスの方法が今まで確立されておらず、市に聞いても個人情報保護の関係で教えてもらえなかったが、京都北部の外国人コミュニティがあることを知りある程度把握することができるようになった。</li> <li>・ 食料等の寄付については、HP等で発信を続けることによって、農水省や京都府をはじめ、企業からも声をかけてもらえるようになった。</li> <li>・ 事業の終わりに専門家や支援者等と振り返りと今後のあり方・方向性などを繰り返し話し合うことで、他団体のノウハウを伺うことが出来、また新たなアイデアをいただくなど次のステップを共有することができた。また、支援者やスタッフから出た意見や専門家からのアドバイスを今後役に立つ形に取りまとめた。</li> <li>・ 傾聴講座については、講師の作成したレジュメに支援の質を高めることができる内容を加筆して、今後新たなスタッフや支援者にそのノウハウを伝えることが可能になった。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フードバンクにおいては、どうしても缶詰やレトルト食品などが中心になるため、子供の栄養が偏る心配があること、子供たちが必要としているのは食料だけでなく、文房具、本、生活用品など多岐に渡るが、それをどのようにして集め、必要としている子どもに配布するかを検討する必要がある。</li> <li>・ 傾聴を通じて相談活動を行っていくためには、支援者の高いスキルや人間性が要求されるため、人材確保と育成を両立していく必要があること。</li> <li>・ 交流会については、参加する家庭（子供）に限られ、本当ならば参加してもらいたい家庭は保護者がパート等により参加できないことが多く、交通手段確保だけでは難しいこと。</li> <li>・ 学習支援については、放課後クラブなどで学習の遅れが認められる子供の支援をされているが、外国ルーツの子どもを持つ親などは外国語が話せる支援者でないと状況をきちんと把握できないなどの課題があるため、連携等によって、対応していく必要がある。</li> </ul>	
<p>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>			<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>私たちは、23家庭の保護者や子供たちと関わることができ、一つひとつの家庭、一人ひとりの保護者、子供に向き合った支援を達成しました。</p>
<p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p>			<p>交流の場で、様々な世代、言語、文化のなか、物おじせず遊び、声を掛け合う子どもたちの姿を見ることができるようになった。ひとり親世帯の若い母親が、「食料のことだけでなく、いろんな話を聞いてくれたり、応援してくれていることで頑張れる」と言って、厳しい状況の中で新たなチャレンジを始めた。</p>	